

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

モノづくり体験教室

平成 15 年より続く、モノづくり体験教室が今年度も行われています。

「モノづくりの町 東大阪」の子どもたちに、モノづくりの楽しさを知る機会となるよう、本市経済部モノづくり支援室のモノづくり教育支援事業を、地元企業で組織されている NPO 法人東大阪地域活性化支援機構が中心となって行っています。



今年度は 14 種類の体験内容となりました。講師の皆さんは、東大阪市内企業の方方で、子どもたちにモノづくりの楽しさを伝えるために、活動してくれています。



北宮小では、5 年生で、「めっき・ダーツ体験教室」が行われました。めっきの仕組みを学習し、めっき作業を体験。後半は、講師にこられた企業さんが、日本でトップシェアを誇るダーツについて学び、体験しました。



加納小では、2 年生で「紙袋製作体験教室」が行われました。紙袋の種類について学習するとともに、一

枚の紙を工夫しながら手提げ袋を作りました。完成した時には「できた」という喜びの声があがり、笑顔が見られました。



東大阪市では、「地元を尊ぶ感情」を高める特色あるキャリア教育の推進を図っています。

このモノづくり体験教室のように、子どもたちは様々な体験を通して、東大阪の「ええとこ」を感じ、「ええひと」にふれあい、「地尊感情」を育みます。地元への愛着が深まることで、自分のことを大切にする自尊感情を高めることを目的にしています。

平成 28 年度開催講座

- ・ワイヤーアート
- ・ひな人形工作
- ・紙すき体験
- ・紙袋製作体験
- ・磁石体験
- ・グッズ工作
- ・ネジの仕組み体験
- ・エコ製品製作
- ・アートネジ体験
- ・工具と木工工作
- ・めっき・ダーツ体験
- ・鉄工所と町おこし
- ・工具体験
- ・ダンボール貯金箱

ノロウイルスにご注意を！

ノロウイルス感染症とその対応・予防

● ノロウイルスの特徴

【潜伏期間】感染してから発病まで、1～2日（短くて数時間）通常は軽症で、症状が1～3日続いて回復。

【主な症状】下痢、おう吐、吐き気、腹痛、微熱が1～2日続く（ひどい場合、脱水症状を起こす事もあります）。

乳幼児、高齢者、疾患のある方など、抵抗力の弱い方が発病すると重症化することもあります。

● 感染予防のポイント …（国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-a.html> を加工して出典）

【手洗い】最も重要な予防方法です。トイレの後や帰宅時、食事前には、流水・石けんによる手洗いを実施しましょう。

【加熱】貝類などは十分に加熱して調理し、貝類を調理したまな板や包丁はすぐに熱湯消毒しましょう。

【処理】マスクや手袋を着用し処理を行いましょう。

ふき取りの際に飛沫が発生します。ゴーグルなどで目の防御をすることもお勧めです。

放っておくと乾燥し空中に舞い散り広がりますので、早めに処理を行いましょう。

処理後の雑巾・タオルはビニール袋に入れて密封し、捨てることをお勧めします。

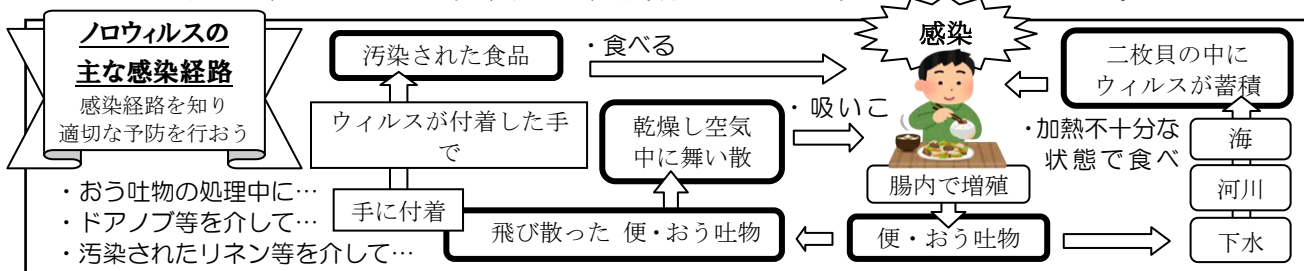
汚染されたリネン類をそのまま洗濯機で洗うと、ノロウイルスで汚染され他の衣類にもウイルスが付着します。

汚染された可能性のあるもの（調理器具、衣服、トイレ、おう吐物に汚染された床やリネン、バケツなど）は、熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱、または、次亜塩素酸ナトリウム※で殺菌処理をしましょう。

※家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用可能（「使用上の注意」を必ず確認）

○ 学校園での感染予防のポイント

汚染された衣服を、多くの人が利用する手洗い場等で洗うと感染拡大の原因となる場合があります。保健所からも汚染された衣服は、洗わずに持ち帰ってもらうよう指導されています。ビニール袋に入れて密封し、可能であれば廃棄するか、保護者の方に持ち帰ってもらってください。



【参考資料】厚生労働省 HP <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>

中河内地区三市（東大阪市・八尾市・柏原市）による授業改革実践交流会

12月16日（金）、中河内地区三市合同の授業改革実践交流会（指導方法の工夫改善〈少人数指導〉部会）が八尾市役所内会議室で開催されました。習熟度別指導をはじめ、きめ細かな指導に取り組んでいる学校の実践を交流することにより、授業改革の一層の推進と充実を図るとともに、新しい指導方法のあり方について研究討議する場として、毎年行っているものです。各市からそれぞれ実践報告が行われ、本市からは、枚岡中学校より、英語科の少人数指導の実践について報告がありました。コース選択をするときの工夫や、ワークシートにヒントを入れるなど、到達目標を達成するために行っているコース毎の手立ての工夫等、参加者にとって大いに参考となりました。

後半は、「深い学びにつながるキラリポイント」をテーマに、参加者が授業実践の工夫や効果について、グループで交流をしました。部会のまとめとして、講師の大阪府教育センター指導主事より、「この授業でつけさせたい力は何か」という視点で各教科の特性からアプローチし、子どもの力を引き出す深い学びを実現していくための効果的な授業づくりについて示唆をいただきました。参加者にとって、自らの授業を振り返ることができる実りある交流会となりました。

